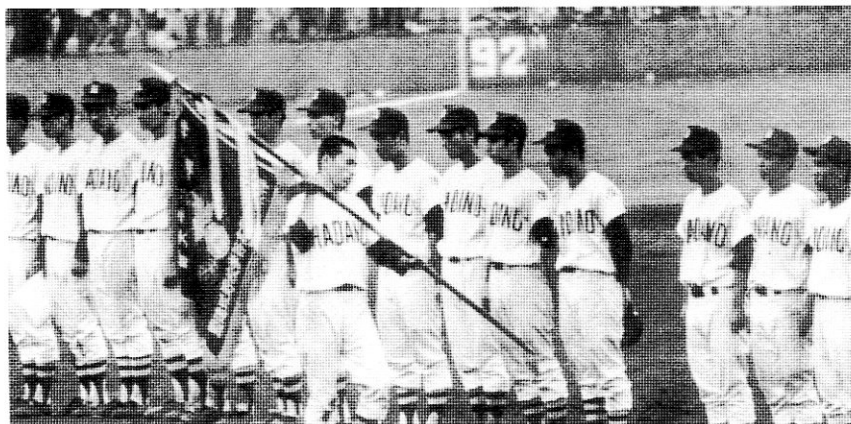


広陵

第24号 1995. 7. 20



神奈川県立秦野高等学校同窓会々報



第54回全国高等学校野球選手権大会神奈川地方大会準優勝

同窓会々報第24号目次

表紙	題字	宮本 信義(中5)
写真	スケッチ	横溝 英一(中20)
	「梶山フォトスタジオ」	梶山 敏之(高17)

総会のご案内・平成7年度事業計画	1
予算案・決算の報告	2
ごあいさつ	3
ごあいさつ	3
着任のごあいさつ	4
退職にあたって	4
70周年委員会報告・醸金状況	5
支部だより	6
寄稿	8
秦高在職中の思い出	8
秦中・秦高に想う	10
母校から―進学カルテ	12
母校からこんにちは―弓道・女子籠球・陸上・女子柔道―	14
同期会だより	16
70周年記念事業実行委員	17
表紙スケッチ・総会報告・客員異動・物故者等	18

平成7年度秦野高校同窓会 ～ 総会の御案内 ～

日時：8月27日(日)

場所：小田原商工会議所1階(大広間)

小田原市城内1-21

Tel. 0465-23-1811

総会日程

P.M 1:30 受付

2:00 総会

- 6年度事業報告及び決算報告
- 7年度事業計画及び予算審議
- その他

懇親会(参加者4,000円)

総会のご案内

会長 小泉 功

平成七年度の総会是小田原商工会議所で八月二十七日に開催されます。小田原地区支部の皆様のご協力を努力で開催にこぎつけました。どうか会員の皆様のご参加をお願い申し上げます。

平成6年度 事業報告

- 4月16日(土) 会報委員会
 - 5月21日(土) 幹事会
 - 6月18日(土) 70周年実行委員会
 - 7月20日(土) 三校(本校、大森野、伊勢原)同窓会連絡協議会
会報23号発行
 - 8月6日(土) 70周年実行委員会
 - 8月20日(土) 同窓会総会(平塚プレジール)
 - 11月19日(土) 役員会議
 - 12月2日(土) 造園整備
 - 1月28日(土) 役員会議
 - 2月25日(土) 役員会議、会報委員会
 - 3月1日(水) 母校卒業式、新会員入会441名
 - ※上記の他、年間を通じ、慶弔、プラスバンドへの助成などを行う。
 - 5月～3月 激励費支給
 - ・ 県大会ベスト8(三千元支給)
 - 陸上競技部 24名
 - 水泳部 1名
 - 弓道部 7名
 - 柔道部 4名
 - 女子籠球部 30名
 - 男子籠球部 30名
 - 男子蹴球部 15名
 - 男子蹴球部 30名
 - 弓道部 6名
 - 陸上部 3名
 - ・ 関東大会(七千元支給)
 - 男子蹴球部 1名
 - 男子蹴球部 1名
 - ・ 全国大会(二万円支給)
 - かるた 1名
 - 男子蹴球部 1名
 - 尚、2月16日 校内一万人マラソン大会に賞品を贈る。
- ### 平成7年度 事業計画
- 一、幹事会、総会の開催
 - 二、会報第24号の発行
 - 三、会費納入の促進
 - 四、支部組織強化
 - 五、在校生活動支援
 - 六、記念造園の整備
 - 七、3校連絡協議会開催
 - 八、造林調査
 - 九、70周年記念事業の促進
 - 十、慶弔
 - 十一、その他

平成6年度 決算報告書

平成7年度 予算案

◎ 歳入の部

項目	6年度予算額	6年度決算額	増減(減△)
前年度繰越金	616,481	616,481	0
卒業生入会金	1,308,000	1,308,000	0
繰り入れ金	2,900,000	2,900,000	0
雑収入	200,000	122,805	△ 77,195
合計	5,024,481	4,947,286	△ 77,195

◎ 歳入の部

項目	7年度予算額	6年度予算額	増減(減△)
前年度繰越金	401,732	616,481	△ 214,749
卒業生入会金	1,320,000	1,308,000	12,000
繰り入れ金	3,500,000	2,900,000	600,000
雑収入	120,000	200,000	△ 80,000
合計	5,341,732	5,024,481	317,251

◎ 歳出の部

項目	6年度予算額	6年度決算額	増減(超△)
会議費	520,000	414,839	105,161
総会費	250,000	218,795	31,205
幹事会費	120,000	114,582	5,418
委員会費	150,000	81,462	68,538
事業費	3,574,000	3,500,927	109,483
支部育成費	200,000	230,000	△ 30,000
在校生活動振興費	600,000	550,250	49,750
ブラバン助成費	100,000	100,000	0
造林調査費	40,000	0	40,000
森林組合賦課金	4,000	4,000	0
造園維持費	80,000	80,000	0
慶弔費	150,000	125,500	24,500
会報発行費	2,300,000	2,274,767	25,233
70周年記念事業費	100,000	136,410	△ 36,410
事務費	650,000	629,788	20,212
事務局費	300,000	300,000	0
通信費	200,000	195,950	4,050
印刷費	150,000	133,838	16,162
会館積立返済金	0	0	0
予備費	280,481	0	280,481
合計	5,024,481	4,545,554	478,927

◎ 歳出の部

項目	7年度予算額	6年度予算額	増減(減△)
会議費	520,000	520,000	0
総会費	250,000	250,000	0
幹事会費	120,000	120,000	0
委員会費	150,000	150,000	0
事業費	3,802,000	3,574,000	228,000
支部育成費	280,000	200,000	80,000
在校生活動振興費	600,000	600,000	0
ブラバン助成費	100,000	100,000	0
造林調査費	40,000	40,000	0
森林組合賦課金	2,000	4,000	△ 2,000
造園維持費	80,000	80,000	0
慶弔費	150,000	150,000	0
会報発行費	2,400,000	2,300,000	100,000
70周年記念事業費	150,000	100,000	50,000
事務費	650,000	650,000	0
事務局費	300,000	300,000	0
通信費	200,000	200,000	0
印刷費	150,000	150,000	0
予備費	369,732	280,481	89,251
合計	5,341,732	5,024,481	317,251

次年度へ繰越	
6年度歳入総額	4,947,286
6年度歳出総額	4,545,554
次年度へ繰越	401,732

同窓会館積立金	
6年度までの積立額	14,384,770
利息	119,897
残高	14,504,667

同窓会費積立金	
繰り越し金	18,026,314
終身会費	2,890,000
卒業生会費	2,200,000
繰り出し金	2,900,000
手数料	206,100
残高	20,010,214

同窓会館積立金より

70周年事業貸し出し 5,500,000

終身会費納入状況(平成5年7月～平成6年3月)

1631人 = 16,310,000円

終身会費納入状況(平成6年4月～平成7年3月)

289人 = 2,890,000円

同窓会館積立金より

70周年事業貸し出し 2,000,000

いあいさつ

草創百十年に向けての連携を願って

同窓会々長 小泉 功



同窓生の皆様には益々ご壮健にご活躍のことお慶び申し上げます。

昨年(の)の総会より早一年、この間唯一心に会の充実への努力を致して参りましたが、知れば知る程先輩役員の苦勞がしはばれ、その実績を評価するばかりであります。

平成八年十月母校草創百十年の節目を目前に今年度の計画推進を致すべく、学校、PTA、校内幹事等の連繋の元、8実行委員の活動もすでに始り、更なる内容充実の為、鋭意努力中であります。

かつて同窓会館建設を夢みた同

窓会林も、隣接の県の菜の花台公園の拡張整備を期に記念碑建立の予定も持つております。諸計画は総額二千五百万円の枠で進められておりますが、一面募金集めの苦勞もついております。会員諸兄の絶大なご理解とご支持をお願い致します。

広陵発行は二十四号を迎えますが、年一度の会員相互の情報交流の場として大切なものであることを思う時、編集者の緊張も又特徴であります。予算の関係で限られた頁数でありますのが悩みであります。

今や卒業生も一万七千余名となり各地各層で活躍しておられますことは、同慶の到りであり、バックボーンとなる質実剛健の校風は見事に引き繋がれておりますことは、これぞ伝統の尊さと感激するものであります。

五十余年前、軒場程の高さであったプラタナスが今や三階の校舎の棟と並んだ大木に成長しており、頼もしい母校の発展を象徴するかの様であります。ご母校の節ご鑑下さい。

ものであります。

今後其母校の発展の為一層のご支援を賜り度く、諸兄諸先輩のご健勝をご祈念を申し上げます。

草創百十年＝創立七十年記念事業をめざして

学校長 實方 正



卒業生の皆様には、日頃から母校のために温かいご支援を賜り、厚く感謝申し上げます。若竹のようにすくすくと育ち、伸びやかな高等学校生活を送っている生徒を

見るにつけ、校風や伝統について考えさせられます。とりわけ、秦高生は、先輩を見習い、先輩においつこうとする気概、先輩の道を

追ればといった安心感に支えられて、育ちつつあるようです。子どもは親の背中を見て育つとよくいわれますが、これに加えて、先輩の姿を見て育っているようです。

先輩と後輩の強い絆は、本校の大きな教育機能です。今後共宜しくお導き下さい。

「ずいぶん大きくなりました。

銀杏もプラタナスも私達がいた頃は腕の太さでした」同窓会の役員の方々が懐かしそうに語りかけて下さる事がしばしばです。青々と茂り、青空に大きく枝を張り、幹は二メートルを超え、枝の先は四階の校舎をはるかにこえ、三メートル以上となつています。秦野高等学校の歩んだ七十年の歲月の証人であるかのように聳えています。ご承知の通り、学校は、草創百十年、創立七十年の年月を経

て、明年十月には、七十周年記念事業が実施されます。同窓会の計画もかなり進んでいるようですが、PTA、学校をして生徒の参画や連携こそが大きな力になるのではないかと考えております。本年度より職員の七十周年委員会が発足し、早々と記念誌発行を決定し、準備に入りました。勿論PTAにおいても検討に入つております。拡大

実行委員会も近々お願ひする事にしておりますが、七十周年に出合う生徒にとりましても、思い出深い年になつてほしいと願つております。七十周年記念文化祭、七十周年記念マラソン大会等々が行なわれ、その一環としての記念式典となれば貴重な思い出となるはずですが、学業や部活動も一層力を入れ、秦

高の飛躍の年となるよう期しております。よろしくご理解とご支援をお願いいたします。おわりに、同窓会の益々の隆盛と会員の皆様方のご健勝(ご発展を心から祈念し、ご挨拶といたします。

ご健勝(ご発展を心から祈念し、ご挨拶といたします。

ごあいさつ

教頭 相原泰雄 (高10回)



今度計らずも母校に着任いたしました。私が本校に学んだのは昭和三十年代初期、各学年四クラスのもと男子の時代。将来への夢と希望を抱きつつ、勉学の苦しさ楽しさ、そして思春期の悩みにも苛まれる多感な日々を過ごしました。

久しぶりにみる桂の木の薫る広畑が丘は、東名高速道路が走り、団地や住宅街に囲まれ、校舎とグラウンドは入れかわって一変しましたが、プラタナス、銀杏、桜の樹木が皆を偲ばせてくれています。個性豊かな恩師の方々も思い出され、身のひき締まる思いです。

現在学校は各学年十クラスの一、二九四名、職員七五名(常勤)で

県下最大規模。地域の期待を担い、草創一〇〇年の伝統と同窓生の方々に支えられ足腰の強い学校に成長しております。生徒達は明朗・清楚で部活動にも熱心に取り組み、質実剛健にして文武両道の建学の精神は健在です。

大きな時代のうねりの中にあつて、営々と受け継がれてきた同窓生の方々の善意に支えられ、学校は新たな歴史を重ねています。

私も本校職員、同窓生の一人として、微力ながら力を尽くす所存です。今後ともご支援の程、お願ひ申し上げます。



退職にあたって
秦高への限りなき愛着と誇り

前教頭 内田 敏



樹々の緑が一際深くなつた今日この頃ですが皆様にはお変わりなくお過ごしのことと拝察致します。

三月末日に広畑ヶ丘をあとにしてから早や二ヶ月が経ちました。振り返つてみますと私の教員生活の中で秦野高校こそ最も思出深い学校であつたと考えております。

昭和三十四年から九年間、駆け出しの私を教師として育んでくれたうえに、二五年振りに再び迎えて入れていただいた秦高で最後の勤務ができたことは無上の幸せでありました。良き先輩、同僚、後輩、そして良き教え子達に恵まれ、大変素晴らしい日々を送ることができました。皆様の暖かいご指導、ご厚情に支えられたこの歳月を省

みますと感慨無量でございます。この機に改めて衷心より感謝申し上げます。

在職中は機会ある限り校内外の同窓会活動に参画させてもらい、役員の方々の熱意溢れる取組みに接するたびに前にまして私の胸に秦高への限りなき愛着と誇りが昂まるのを禁じ得ませんでした。

あまたある高校の中で「文武」にわたり秦高ありとの存在になれましたのも一重に草創以来長年にわたる会員の方々の献身的なご尽力とそれを受け継いで現在ご活躍の皆様方の不断のご努力の賜と確信致します。そうした中で私は何をしたかと自問してみますと、余りにも微力であつたことを深く反省する次第であります。

仰ぎ見る銀杏とプラタナスの大樹の年輪を重ねるとともに、秦野高校並びに同窓会がますます発展されますこと、併せて皆様のご健康とご多幸を祈念し、お礼芳々退職のご挨拶と致します。

のれんと味

営直元網
年26明治業明創

海老名

広 沢 富 正 (中9回)

DARUMA 小田原市民会館前 ☎ 0465-22-4128 (代)

支部

だより

茅ヶ崎支部

去る三月一日、九五年度卒業式が新装なった母校体育館で行われ、今回小泉会長の代理として出席致しました。四四一名の卒業生、父兄の皆様等の列席の下、整然と而も厳肅に行われ、感銘を新たにいたしました。往事の卒業式の記憶も分かりませんが、巣立つてゆかれた皆様は、希望に目を輝かし、互いに励まし乍ら別れを惜しむ様子を拝見し、心から豊かな将来で有ります様祈念致しました。やがては母校秦高の後輩のためにご尽力下さることを望みます。来年十月には創立七十周年を迎え、皆様のご協力で着々と計画がすすみ、められており、厚く御礼申し上げます。

す。然し乍ら、ご応募戴いた方は残念ですが、会員一七〇〇名の中、一二％で、募金目標に対しても一六％程度の現況です。活動も余す処一年になりました。母校の記念事業の趣旨をご理解の上、是非多数の方々にご協力を頂きたいと存じます。当支部は学区からも離れ、私共の努力も不十分ですが、地区に在住の方々同級の諸兄でご連絡をいたゞき、是非目標額の四％位はこの地区より募金したいと思っております。既に払込用紙を送つてますが、失くされた場合は是非ご一報下さい。私から御送り致します。

金子尚 (中12回)

平塚支部

恒例となりました「平塚支部会員のつどい」は、昨年6月26日「天清」で開催されました。第一部 講話「古代の平塚」と題しまして平塚博物館職員(高19)

関恒久氏の話をきくことができました。話題は相模の古社前鳥神社周辺の四之宮。真土地区の歴史を発掘調査の成果からの考察でした。特に相模の国の国府所在地については、通説である大住国府にあげられている伊勢原市の比々多説、平塚市の四之宮説、秦野市の御門説がある。最近の発掘調査の結果では四之宮説が最も強くなつてゐるとのことである。古代官衛の出土遺物の紹介や説明を興味深く聴くことができました。改めて講師の関氏に感謝いたします。

第二部 つどい

○報告事項は70周年記念実行委員会が活動開始で記念事業の内容募金目標額(二千五百万円)等でした。
○協議事項では同窓会総会開催地が平塚のため、総会にかかる世話人の選出(10名)をして事前準備をお願いをした。なお秦友会(平塚市役所)に協力依頼するなど申し合わせをいたしました。

○懇親会 来賓として小泉功会長が参加され当面の課題である記念事業の推進(募金)などに触れられた。続いて懇親会となつて和やかな歓談をいたしました。終りに再会を約して散会しました。

山川彰藏(中17)

東京支部

当支部の便りも毎年色々の方に書いていただき、在京「広畑会」の多彩な顔触れを紹介して参りましたが、その中でも昨年の「広陵」二三号にはこの東京支部設立以来会長を勤めていたという中? 回須山喜一先輩(サンウエーブ元社長、会社)に当支部の三十年余りの経過と同顧などを披露していただきました。

かくして十年以上の経年変化により、新旧の交替も逐次進んでおり、昨年五月に開催した東京支部の総会・懇親会には、実方秦野高校長、小泉同窓会長をお迎えした

株式会社 小田原魚市場

小田原市早川 1 - 10 - 1

TEL 0465 (22) 8131

広 沢 富 正 (中9回)

上、永山喜祿沖繩開発庁事務次官（高〇〇回）など行政庁関係のほか多数新会員の参加のもと、新宿三越本館ランドマークにて盛大裡にこれを催すことができました。東京支部では、これを機会に会員の拡充と活性化に努めることとし、支部役員組織につき、現須山会長、柳川寛治副会長のほか、新たに平山勲、深田副会長と二階堂博史幹事を選出し、幹事も新たな参入を得るなどして、これまで少なかった中堅、後輩の加入を勧奨し、新鮮味のある同窓会支部とすべく、二階堂幹事長ほか数人の幹事の方々が尽力中です。このような中、日本獣医畜産大学杉山公宏学長（高五回）の加入申出もあり、その他多数の新規加入会員の氏名を盛った新名簿を作成中です。

当支部の次回総会・懇親会は本年十月を予定していますので、この支部便りで東京支部をお知りになった方は、事務局（広告「深田法律事務所」）にご連絡下さい。会

員資格は東京及びその周辺の県に在住又は在勤の方です。
深田源次（中21回）

秦野支部

昨年の11月地区長に依頼して新地区委員の選出を行ない、支部運営が新陣営でスタートした。組織は、支部長1名、副支部長1名、地区長6名、副地区長24名、書記会計1名、地区委員137名（本町38名、南38名、東8名、北9名、大根8名、西16名、顧問6名の総数177名の規約に基づく役員構成である。支部活動の主力は会報「広陵」の配布である。終身会費制導入前はそれに加えて年会費の徴収という責任ある役割があったがそれが無くなり役員はホットしているのが偽らざる心境ではないか。それでも自分が担当する区域の会員に会報を配布することは郵便配達局員と同じ苦勞で頭が下る思いである。

5年前から実施している視察研修は予算の関係と会員の経済負担を軽くするという理由からバス一台、一日行程である。六千余人の会員を擁している支部で僅かな会員に限定して行わざるを得ない状況に苦悩している。豊かな財源が確保されれば、年令の格差、趣味、生活環境の差異等の会員に対応できる活動が考えられるが現状維持が精一杯である。

創立七十周年は来年10月である。この為の組織は早くから始動し事業も着実に計画準備されつつ、あるがこれに要する経費は会員との醸成に寄るものであることから支部は総力をあげて募金活動に努力しなければならないと意を新たにしている。 榎本丰治（高2回）

伊勢原支部

この広陵に会員の皆様がどんな気持ちで接しているでしょうか。支部便りとして何を書いたらと考え

ました。支部の役員の皆様とは折に触れ親交がありますが、これが便りでは何とも淋しい。

そこで役員間での話題である支部の活性化、若返りについて、私の体験をお話しし、支部の皆様のご協力をお願いすることにします。以前、総会に一度出席したことがありました。しかし大先輩の中で居心地悪く、その後しばらく出席しませんでした。

それが六十周年記念のとき小学校時代の御師、能条先輩（当時の同窓会長）より伊勢原支部の一人として協力しろとのことから諸先輩の仲間に加わり御指導を受けながら今日に至っていますが、今では総会、諸会合に抵抗なく参加しています。もし六十周年記念の出し合いがなかつたら今でも総会に又母校に顔を出すことに消極的であるかも知れません。そんな意味では能条元会長には良き先輩に恵まれる機会を頂いたこと感謝しています。支部の皆様には七十周年事

深田法律事務所 弁護士 深田源次（中21回）

〒160 東京都新宿区新宿2-5-1
アルテビル新宿8F

TEL 03 (3356) 2235
FAX 03 (3356) 2236

民事、家事、交通事故、建築、会社関係等

業に役割の委嘱を受けられている方どうか積極的に参画され良き先輩に出合つて下さい。これが皆様の人間性を豊かにし、支部又同窓会の発展にもなることを確信します。

賀川義光 (高6回)

小田原支部

早いもので平成六年度の総会を当支部がお引受けすることになった今回は、小田原駅に近い小田原商工会議所の一階大ホールを、廣澤副会長が幸いのこと当会議所の会頭の点もあり無理して借用することが出来てほつとしました。

当支部も今回地元での開催を機に一年後に迫っている創立七十年記念事業の日までにとりだけのことが出来るか内心配ではあるがこの辺で形振りかまわず出来るだけのことをしなければと考えると憂うつでもあり、又協力を得て前進すれば楽しみも又倍加するやうり甲斐のある仕事でもある。具体

的には小田原地区二五名、足柄上郡五一六名、足柄下郡一七名、南足柄市一一五名、計八六三名と九〇〇名に満たない同窓生でこれからの増加はないので組織づくりが出来上がれば、小じんまりした心の通じ合える仲間になることを思うと楽しみでもあります。機会を得て成功したいものです。特に足柄上地区については基本的に検討しなければならぬし、又この地域には積極性の数多い皆様が居られるので楽しみます。皆様のご協力を是非共願いたします。

小田原市入生田(入生田駅徒歩三分)にこの三月二十一日に神奈川県立生命の星・地球博物館が誕生致しました。四六億年に亘る地球・生命の営みを県の自然・地球環境の重要性を共に考える新しいタイプの博物館です。小田原駅から電車、バスで十分程度ですから当地へお出での際は是非お寄り下さるよう紹介致します。

柳田敏雄 (中12回)

秦高在職中の想い出

秦高の卒業生

鈴木保男

(昭和39年〜47年)

七年間お世話になった秦野高校に、もう二十年以上も無沙汰をしている。文章を書くことの苦手な私が、「広陵」に依頼されると二つ返事で引き受けてしまった。

秦高の敷居が高くなったことを気にしていたこともその理由の一つだが、「秦高の卒業生」への長年の思いを何かの形で表わしたかったからである。

大変図々しい話だがこの紙面をお借りして多勢の卒業生にお礼が言いたかつたからである。秦高七周年に、私を通り越していつた卒業生はすでに四十代後半になつてゐる。一期一会と言うが振り返ると皆すぐ傍にいる。一つ声をかけると、二つも三つも返つてくる。二十数年随分長いこと付き合つてくれたものだ。

思えば荒つばい生徒達だった。女子が一人もいなくなつて教室に黒服ばかりが五十五人もいたのだ。喧嘩口論は日常茶飯事、新任教師を教壇に立往生させたこともある。仲間意識が極めて強く、やぐざまがいの出入りもあつた。しかし、ただ一つ、生徒は秦高を愛した。喧嘩も、対教師感も母校愛からだと思つて信じていた。校則は破つても信頼は決して裏切らなかつた。

通勤電車の中でも、夜の街でも必ず声をかけてくる。あの仲間意識が今は連帯感となつて、西に東に大きな社会愛を形成している。そんな秦高生と一緒に学芸出来たことは教師生活最大の冥利である。出来得ることなら、生涯友として仲間としてお付き合い願ひたいものである。

浄化槽 管理

排水詰り 即OK

貯水槽 清掃

陸上部 塚本 誠 (高第23回卒)

有限会社 神奈川クリーナー

平塚市平塚1-14-8 電話 (0463) 32-3650

「秦高追憶」

青木裕正

(昭和36年～昭和46年)

一つしかない改札口の小田急線「大根駅」を降りてすぐ右折し、踏切を渡り、走る線路に沿って小田原方面に歩く。駅より二つ目の踏切をもう一度越えると、野草の間に小径がのびている。右手に雑木林、左手は田んぼである。十数分は歩いたが、少々汗ばむこともある。丘陵の下に着いたわけだが、視界には高い建物は何もない。雑木林の崖下に、狭い小径は続いていく。迷わずに歩を進めていくと、一人一人がやつと通れるくらいに急坂にさしかかる。その坂を登りきると眼の前が一気に開ける。桜の古木の向こうにたたずむ校舎が迫り、思わず歩を止める。閉ざされた、単調な景色から一変

して見上げる、この到達感、爽快感が私の秦野高校に対する強烈な原体験となっていて、いまでも心の中に焼きついている。

私が在職していたのは、ちょうど十年間であった。その間に、鉄筋の校舎が新築され、古い木造校舎は取り壊された。校地のほぼ中央に太く、背の高いスズカケの木が数本並んでいる。はがれた樹皮、枯れ枝や三つ四個連なつた落果を踏んで引越した。帰り際、職員用の下駄箱に薄い秋陽を浴びていた茶色のセリチヨウの群れが飛び立つ。生物準備室には年代ものの鳥類の剥製標本がそとと息づいている。校舎の南側に広がる草地のノアザミの茎にびつしり食いついている赤いアブラムシを発見して、急いでルーペを取りにかけたこともあった。明るくまぶしい近代的なものよりも、古びたセピア色の遠のいていった、ちよつとボケ味のある秦高の光景に懐かしさがひとしおである。

秦高在職中の想い出

塞翁が馬

露木三二郎

(昭和16年～昭和27年)

私が旧制秦野中学校にお世話になつたのは太平洋戦争の始まつた年の昭和16年四月のことです。実はその前年から大蔵省の専売局に勤めていましたが翌年の一月に父が亡くなりました。私は名前(三二郎)の示すとおり五男ですが、その時兄達が集まつてお前は専売局にいても出世しそうなから田舎(二宮町一色)の土地と家をやるから母の面倒をみながら家を継いでくれ、自分達は仕事の都合上田舎には帰れそうもない。学校の先生にでもなつた方がよいということでした。当時の秦中の校長は浅井誠一先生です。私は博物(動物植物)と農業作業等の担当をしました。今考えてみると大変恥ず

かしい授業で反省している次第です。そして二年八月後の昭和十七年十二月召集令を受け東部八十八部隊に入隊し内地には数日のみで中支戦線の漢口に駐屯、初年兵教育をうけ部隊は通信隊です。しかしまもなく体調をくずしあとは病院生活です。内地には昭和十九年五月に帰りました。その時秦中を退職し療養生活に入りました。従つて終戦をきいたのは秦野療養所です。その後昭和二十一年秋に秦中に復職し二十四年に学制改革で秦中は秦高にそしていくつかの職場を経て昭和五十五年に厚木東高校を最後に教職を退きました。今振り返つてみるとあつという間の三十余年です。そして人生は故言のいうとおり塞翁が馬のものでした。世の中何がさいわいになるか全く分かりません。私も本年喜寿になります。唯その場その場の環境に誠実に生きていくことこそ大切ではないかと思つている次第です。

大秦野正宗運送株式会社

神奈川県秦野市本町3丁目9番45号

☎0463-81-0067

取締役社長 古部義長 (高2)

秦中・秦高に想う

「ローリースケート」

瀬戸正吾（中8回）

シューツ、シューツ、ギギ

ギーツ。滑らかな円弧を画きながら、ローリースケートは板張りの講堂の床を走る。しなやかな肢体をスケートに乗せて滑り来、また滑り去る眼鏡の先生のお顔がほころんでいる。呆気にとられてただ驚きの私達に、「君達、今日からこれやっていいんだよ」と。途端に初めて歓声が挙った。宮尾先生の進言、袴田校長の決断に感銘の興奮を胸に、私達は初めてスケートの上に立った。いや載せられた。ガリガリツ、スッテンコロリ、ドッシャンコ、果ては教壇と一緒にひっくり返る雅気漫々の音の第一日。日を逐つて増していく喜びのさざめきに、深傷の床板に、陳謝合掌。「自惚滑走」の口吻は、さどどのくらい後の日の事だったか。鈴木昂先生のお出ましで、「受

験生には益も正月も無いんだぞ」をしておに、さつぱりと課外学習に気を移した懐かしい講堂スケートの思い出。県移管前の、奈珂中最後の年の出来事だった。

五十年前の

秦中卒業式

熊澤八郎（中18回）

昭和二十年三月二十八日（水）晴。午前六時起床。天候は朝のうち、いささか曇りておりしも、次第に回復し、後には絶好の春日和となりぬ。午前八時すぎ家を出発し、学校（県立秦野中学校）に向う。

本日は、中学校の卒業式なり。四年間（第十八回生）或いは五年間（第十七回生）の蛍雪の功なり

て、日出たき秦野中学校卒業の日なり。午前九時より卒業の式典開始。長官・来賓各位の懇切なる御言葉を賜りて、我等感激の極みなり。本日の卒業式は、大東亜戦争下、国家の存亡を背負いて立つべき、非常に意義深き門出の日なり。

午前十一時頃、式は終了す。まことに、浅井校長先生の御訓話の中にもありたるが如く、明日よりは、秦中健児たりし時の精神を忘れず、又、母校の名を辱しめざるよう、動員学徒として重要兵器の増産に邁進すべし。

ああ、校歌にも歌われたるが如く、我等は若校と散るとも祖国を守らねばならぬ。その任務は重大なり。（以下省略 戦争末期の卒業の日の日記を引用しました。）

高等学校の

租税教育

梶山春雄（高7回）

在学中は授業に追われ、何もクラブ活動など、せず、のんびりと過ごしました。平成3年に管内である平塚税務署で初めて高校の租税教育を開始致しました。その時の校長であった山口先生には、大変、お世話になりました。私も、東京地方税理士会平塚支部長で、開所式の挨拶を致しました。在学

世界一の鋼管工場

神戸製鋼所秦野工場協力会社

株式会社 浅田工業
浅田忠男

構内事業所 秦野市平沢65番地

☎ 0463-82-2438

FAX 0463-82-8662

中の国語の担任であった杉山先生が云われた事で「税金を使つて教育を受けているのだから、良く勉強するのだ」これが高校の租税教育だと思ひます。その思ひ出を、管内十数校の高校長の前で挨拶をさせて頂きました。大学はスポーツの学校のため現在も、野球、ソフトボールなどをやっております。高校時代にもつとやつていれば良かったと思ひます。勉強も、税理士試験のため3時間睡眠を3年間続けたことが思ひ出されます。

”思ひ出”

戸田 稔 (高13回)

今日では男女共学はあたり前のことですが当時の秦高は、男子学生が大多数で女子学生は全学年でも十五名前後だったと憶ひしています。

北相地区では比較的スポーツの盛んな学校で、野球やテニスそして柔道等も各種大会ではある程度

の成績を取めており、「北相の雄」と言う自負があつたように思ひました。

最近秦高の前を通り、驚きました。周囲の景観もすっかり変わり、また校舎も昔の面影はななく時代の流れを感じました。

何年前かに私の長男も秦野高校に在籍しておりましたが、今ではすっかり進学校となり、昔のスポーツ盛んな秦高のイメージが無くなつたのが少しさびしく感じしております。

みんな元気でやつてるか!

栗飯原勝男 (高28回)

秦高時代の想ひ出と言へば、県道沿の桜並木の美しさ、苦しかつた校内一万メートルマラソン、寒い日には骨が冷めたく厳しかつた柔道の授業、雄大な北海道への修学旅行、文化祭、体育祭など沢山あるが、やはり級友との学校生活が一番思ひ出深い

ものである。

先日、職場の後輩が秦高の同窓会名簿を持つて来たので見せてもらつた。

さすがにその真数の多さが歴史の永さを物語つていた。住所、就職先もひじょうに広範囲だつた。その中でも目を引いたのが自分の卒業期の欄だつた。

あれ、あいつがこんな所に、こいつはあそこと見ていくうちに一人一人の顔が浮かんだ。

皆元気でやつているだろうか。同時に、懐かしさと会いたい気持ちがかみ上げて来た。

良き友・良き想ひ出

相原秀人 (高38回)

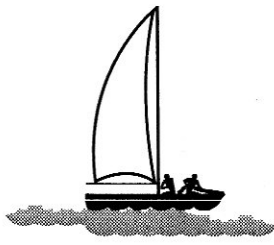
「質実剛健」の旗の下、僕らの高校三年間は、本当に自由快活な学園生活を過ごせたように思う。進学校とはいへ勉強などは二の次、三の次、授業を抜け出し金目川で魚釣りや、裏の畑で焼イモ

を食べたり、女子更衣室をのぞいたり、その度くらつた鉄拳制裁、色々な事が走馬燈の様に思ひ出される。

最大の思ひ出は「体育祭」あんなに大勢の仲間と共に一生懸命になれた事は今までなかつたしこれからもないと思う。

この時代に得た友人達は今でも自分の宝物である。あの自由でおおらかな雰囲気、それが秦高のすべてである様に思う、高校三年間の多感な時期を秦高で過ごせた事に感謝している。

そしてのびのびとした校風がいつまでも変わる事のない様に願う。



日産火災海上保険(株)代理店 喜多総合保険事務所

代表 喜多 実 (高3回)

自宅・事務所 神奈川県伊勢原市桜台1丁目15番14号
(〒259-11) TEL (0463) 93-1091

連絡先 日産火災 新宿東支社

TEL (03) 3204-6371 (代表)

- 火 災 保 険
- 自 動 車 保 険
- 傷 害 保 険
- (補 償 と 貯 蓄 の)
- 各 種 積 立 型 保 険

進学カレッジ

母 校 から

- ▷
四年制大学への進学者が増加
◁
- ▷
地方大学への積極受験目立つ
◁
- ▷
中堅私大の難易の変化に注目
◁

進路指導部 秋元巧美

今年も長引く不況の影響と思われる入試状況となりました。それは全国的に国公立大の受験者が増加したこと、いわゆる中堅校以下の大学における難易の変化に表われていると思います。

国公立大は受験者が増えたことから首都圏の大学が難化している中で、本校では東京工大、都立大を始めとして二十九名もの合格者が出たことは大いに健闘したと言えるでしょう。この好結果を生んだ理由の一つとして、地方の国公立大へも積極的に挑戦したことがあると思います。

次に私立大や短大については、難関校である早稲田大、上智大、慶應大の合格者数は例年並みですが、今年は理科大の合格者が大幅に増え、さらに法政大、日大、神奈川大などの中堅校の合格者も相増えた結果、全体の合格率がよくなっています。また、短大への合格率も上がっていることは、各自の着実な取り組みの成果である

と思います。

推薦入試については、今年は希望者がそれ程多くはなかったようです。これは、生徒達が自分の希望する大学、学部にこだわってあえて推薦を受けなかったということだろうと思いますが、考えてみれば当然のことでしょう。

専修、各種学校への進学者は年々減少してきており、今年は十五名でした。進学先は看護、医療系が半数程で他に音楽、観光、デザイン関係へ各自の適性を活かして進みました。

最後に就職についてですが、これ程社会の影響を受けるものなんでしょうか。今年は結果的には女子一名だけが、幸運にも病院の事務職に就くことができました。求人数が大幅に減少してきています。これも当然の間は厳しい状況が続くと思います。

総じて今年の入試状況は国公立大の人氣が復活した感があるようですし、私立大や短大の難易の変

化も見逃がせない結果となりました。今後このような状況が続くと思いますが、生徒達には正しい情報をもとに自分に合った進路を選択してほしいと思います。以上が今年の進路状況ですが、例年と同様に皆がこの三年間を充実した形で生き生きと過ごしてきました。このような生活ぶりには、野高の伝統だと思いますから、

今後ともこの素晴らしい伝統を受け継ぎながら、いずれ社会人として各方面で活躍していくことでしょう。同窓会の皆様には、このような後輩への暖かいご声援とご援助を今まで以上にお願いたします。この報告とさせていただきます。

’95年度卒業生進路状況 人数 () 内は%

	文		理		学年全体		
	男	女	男	女	男	女	計
大 学	59 (52)	99 (51)	68 (61)	14 (61)	127 (56)	113 (52)	240 (54)
短 大	0	67 (35)	0	4 (17)	0	71 (33)	71 (16)
専修各種	2	12	1	0	3 (1)	12 (6)	15 (3)
就 職	0	1	0	0	0	1	1
浪 人	51 (45)	18 (9)	44 (39)	5 (22)	95 (42)	23 (11)	118 (27)
卒業生数	113	194	112	23	225	217	442

弓道部 昨今

顧問 武田 素晴

昨年度に引き続き、今年も四月の関東大会県予選会において第四位となり、六月三日、四日に千葉市で行なわれた関東大会に神奈川県代表として参加することができました。チームのメンバーは早坂一生、福岡健一、小瀬村紀行の三名で、三名とも三年生です。

が、力強く安定しているものです。ただそれは一般論で、確かな技術を身につけることと、精神を養うことで、十分に克服できるものです。そうした選手は今までに多く見てきました。二年生六名も今後の活動の中で少しずつその環境を整え、自らを律しながら、立派な選手に育つていくに違いないと思つていきます。

女子バスケットボール部
顧問 林 弘一

彼らは今までの部の形式に従つて自主的な活動を中心に行ない、のびのびと弓を引いてきました。人数が多い場合なかなかまとまりという点ではむしろ、部長の早坂中心によくがんばつたと思えます。

ところが、昨年女子の高梨千繪美が県の国体選手となりましたが、今年もそれに続いて小瀬村紀行が、国体少年男子の選手に選考されました。少年の部は関東ブロック大会で、八都府の中の二位までしか本大会に進出できない厳しい予選が待っています。他校（桜丘高、三浦高）の二名とチームを組んでこれから厳しい練習を経て八月二十六日、水戸で行なわれる関東ブロック大会に出場します。ぜひとも良い結果を出して欲しいと思つています。

現在女子バスケットボール部は三年生のインターハイが終り、1・2年中心の新チームになったばかりです。現三年生（引退）は百瀬（主）を中心とし、昨年新チームに変わった当初より力を発揮し、地区大会はすべて優勝しました。

標に非常に意欲的に練習しています。ここで新チームのメンバーを紹介いたします。

【二年生】松本紘子（主）、G、山王、松岡美希（副）、F、西、渡辺真理子（F、南が丘）、木下路子（G、鶴巻）、渡辺香代（F、本町）、馬場悦子（F、明訓）、江川玲子（マネ、山王）

彼らは今までの部の形式に従つて自主的な活動を中心に行ない、のびのびと弓を引いてきました。人数が多い場合なかなかまとまりという点ではむしろ、部長の早坂中心によくがんばつたと思えます。

二年生は人数も少なく、しかも六名とも女子ですので、みなよくまとまっています。部長の柳田を中心にした部活の内容についていつも話し合つて意志の疎通は十分できています。射技に対する欲もあつて、意欲的に取り組んでいます。また、お互いがライバルとなつて競い合う意識もあるように見うけられます。

ところが、昨年女子の高梨千繪美が県の国体選手となりましたが、今年もそれに続いて小瀬村紀行が、国体少年男子の選手に選考されました。少年の部は関東ブロック大会で、八都府の中の二位までしか本大会に進出できない厳しい予選が待っています。他校（桜丘高、三浦高）の二名とチームを組んでこれから厳しい練習を経て八月二十六日、水戸で行なわれる関東ブロック大会に出場します。ぜひとも良い結果を出して欲しいと思つています。

現在新チームでは先輩が果たせなかつた夢、関東大会出場”を目

【一年生】百瀬めぐみ（C）、渋沢、渡辺樹子（F、伊勢原）、久保川友美（C、大根）、大関美也（G、成瀬）、関野優子（F、本町）、佐藤由希子（F、西）、高森陽子（G、大根）、藤本寿子（F、南が丘）、三浦和（F、大根）、神谷俊子（F、山王）、岩田梓（F、中沢）、高橋幸子（マネ、山王）、戸田はるか（マネ、大根）

こんにちは

て自主的な活動を中心に行ない、のびのびと弓を引いてきました。人数が多い場合なかなかまとまりという点ではむしろ、部長の早坂中心によくがんばつたと思えます。

二年生にとつての一つのハンデいは、体格的に小柄であるということが考えられます。弓は、身長はそれ程なくてもいいのですが、しつかりした体格である方が、しつかりした体格である方

現在新チームでは先輩が果たせなかつた夢、関東大会出場”を目

【二年生】松本紘子（主）、G、山王、松岡美希（副）、F、西、渡辺真理子（F、南が丘）、木下路子（G、鶴巻）、渡辺香代（F、本町）、馬場悦子（F、明訓）、江川玲子（マネ、山王）

【一年生】百瀬めぐみ（C）、渋沢、渡辺樹子（F、伊勢原）、久保川友美（C、大根）、大関美也（G、成瀬）、関野優子（F、本町）、佐藤由希子（F、西）、高森陽子（G、大根）、藤本寿子（F、南が丘）、三浦和（F、大根）、神谷俊子（F、山王）、岩田梓（F、中沢）、高橋幸子（マネ、山王）、戸田はるか（マネ、大根）

7月26日〜30日は夏期合宿（本校）を予定しています。これからも応援、指導等よろしくお願い致します。

母校から

陸上競技部

土屋・小谷関東大会で活躍

— 全国大会へ今一步 —

顧問 久保 寺 忠 夫

現有部員六〇名を越える秦高陸上部。連日の早朝からの朝練。一年中途切れ事のない試合の連続。そんな緊張感の中でお世辞にも素質に恵まれているとは言えない選手達が地道に練習を続け、着実に記録を伸ばして行く。努力・精進などと言うニュアンスが毛嫌いされる時代の流れの中で、走ることにへの情熱を持ち続け夢の実現に向けて力走する部員達。今年それを立証したのが土屋と小谷の兩名であった。土屋は中学時代全くの無名選手。五月の県大会では一〇〇mで三位、二〇〇mで五位、四〇〇mで四位と三種目入賞。女子短距離個人総合女王となった。関東大会では一〇〇mでコンマ二秒差

で全国に届かず。八月の国体予選では二位に入ったもの一〇〇分の二秒差で国体出場を逃してしまった。小谷は中学時代水泳部。陸上を全く知らない子が五月の県大会三〇〇mで三位に入賞、五分五秒で走り切り、関東大会は一〇位でこれまた惜しくも全国を逃したが目覚ましい活躍であった。全国大会今一步の二人であったがまさしく、「天才は有限、努力は無限」ということを立証してくれた。秋の駅伝では何と男女共に7位。うそさだろ」という言葉が幾度も脳裏を駆け巡ったが、男子は大健闘の七位、女子はエースが直前に交通事故にまきこまれるアクシデント。三位以内確定であっただけに残念であった。

その他各地区大会でも着実に入賞を果たし、私学がチーム強大し

てきている中で、厚木の県央駅伝では一〇年ぶりに男子優勝を獲得したのは立派である。

大勢の部員が一人一人持つ目標に違いはあれ、今もグラウンドで見守る伝統の力走の部旗のもと走り続ける選手達。その姿に安易に時代の流れに流されることのない強さと美しさを時に感じとりませう。

秦高陸上部を胸に部員達は本年も力走致します。新聞紙上を楽しみにOB各位の応援をよろしくお願い致します。



土屋選手



小谷選手

忘れられない女子柔道部員たち

顧問 武藤 清 司

現在、女子柔道部員の数は三年生を含めると選手10名、マネージャー4名の14名であり過去最高の人数となっている。女子の活躍としては、一昨年在県団体ベスト8、北相地区個人(48)で天津圭子が準優勝、昨年は県大会個人(48)で木ノ内優子がベスト8、北相地区個人(55)が南雲久美子が3位に入賞し練習の成果を見せた。思えば10年前に初めて女子が選手として1名入部し、その後一緒に入部したマネージャー2名が選手に転向し、ここから女子柔道部物語が始まることになる。残念ながら1人は途中で退部してしまいが残った2人はむき苦しい？

男子部員とともに最後まで気持ちのよい汗をかいて卒業した。当時の練習は乱取り5分で10本、寝技も5分で5本と決められ、現在の連勝よりも長く、しのぎを削るようなきつい練習であった。技術

よりも根性と練習量がすべてを決定するような柔道であり、ちなみに当時の男子チームは県ベスト8入りを果たし、その後公立高校のチームで8強に入ったチームは少ない。

この二人の女子は時々泣いていて、毎日休まず黙々と練習をこなす、遅く粘り強い選手に成長し、遂には県代表として二人で関東大会出場を果たし顧問を大いに感激させてくれたものである。蛇足ながら、一人は「リカちゃん」と呼ばれ明大に進学し、卒業後は全日空のスチュワーデスになり今も大空を飛び回っている。もう一人の「ユキノちゃん」はホテルオークラに入社し、三年間のオランダ勤務を命ぜられた時の忘れずに柔道着を持参したそうである。

昔も今も変わらず辛い時はよく泣くが、いつも明るく、仲がよく、笑顔のさわやかな女子柔道部員たちの今後の健闘を期待したい。

同期会だより

大山会を つりました

私たちは昭和二十七年三月、繁栄とはほどとおいが一応の安定した世相のなかで卒業した仲間、当時伊勢原厚木地区より通学していた者、及び現在同地区に居住している者を対象に、今回大山荘水琴亭にて、第一回の大山会を新年会を兼ね一月十四日(土)十二時より開催しました。当日は、卒業後四十数年も経っているにもかかわらず十六名の多数参加で盛り上がりました。若き日の思い出に浸り同じ思いを胸に抱いて四時間余りの時間を共有できたことはすばらしいと思えました。この会の目的をたゞ一年一回の新年会にとゞめず会員相互の情報連絡を密にし近況を知り合い旅行、運動、ハイキング等の実施に結びつけたいと思つ

ています。私ごとで恐縮ですが、職場の友人は年々疎遠になり一抹の寂しさを感じてもいるし、子供達には果陳れられ気がつけば自分のそばには老妻しかいなかったのでは余りにもさびしい、還暦をすぎた今人恋しさもあり大山会の創設を考え実行致しました。四時間の宴会が終了後も、あの人もつと語り合えばよかつたと思残りのあつたが、皆さん気持良い余韻を残して帰途につかれた事と思います。再会まで健康に留意して下さい。記 幹事 小野田久男(高4)

中学一六回卒業生

(広陵十六回) 同期会

中学一六期は昭和十九年三月卒業である。すでに戦況が熾烈さを極めている中、卒業式を待たずに戦列に加わつた友もかなりの数に達していた。五年間つと報国造林に通い、教育の戦時体制下、勉学もままならないという状況で、同期生皆それぞれに苦勞の思い出の方が多い。平成五年の同期会が

湯河原温泉で開催された際、来年は卒業五〇年目に当たるから、それを記念して冊子を作るという

ことが決まった。編集委員の骨折りと同期の友の協力により、一年をかけて立派な記念誌ができて上つた。全員とまではいかなかったが、沢山の同期の友による昔の回想、近況、所感、随想などが登載され、その上恩師五先生の玉稿も頂戴した。大変立派な、自慢のさきものだと考える。

平成七年二月二十四日に湯河原温泉での「卒業五〇年記念」誌完成の披露と卒業五〇年を祝う同期会が開催された。参会者はお二人の恩師先生を含めて二十七名で、昔の思い出も尽きず、盛大な記念会同期会となった。なお、われわれの同期会は「広陵十六会」と呼ばれている。

(文責 岩田俊一)



高校七回生 クラス会だより

平成六年十月十六日秋晴れの日

曜日午後私達高校七回卒業生は小田急秦野駅前グランドホテル神奈中に集い卒業後第八回目のクラス会を開催しました。恩師の杉山長風先生大館茂先生渋谷富治先生伊東昌幸先生にご出席をいただき総勢三十五名となつて会場の中華テールを囲んで久しぶりの昔話や仕事のこと家族の話などに花が咲きました。秦野も人口が大増加し私達の秦高も卒業当時のたずまいを一変し小田急の駅名も新しくなるなど近辺の様子もずい分変わりましたが同窓生が一堂に会し思い出話に熱中するとき、青春の三年間をともしすこした母校への思い入れあるいは高校生時代に對して抱くなつかしくほろ苦しい出はめいめいの心の中で終生変らないものです。

先生方からはご祝辞を頂戴しご

自身の近況やら貴重な人生訓など聞かせて頂き、師は永遠に師であること一同あらためて感激した次第です。

宴の進む中出席者各人の報告を終つて喉自慢の達者によつてカラオケがあり会は大へん盛り上がり無事閉会となりました。私達は間もなく還暦を迎えるわけでお互に人生最後の仕上げのため今迄以上に絆をつよくして行くため今後は出来るだけ機会をつくつてクラス会を続けていきたいと願うものです。文責 相原 清(高7回)



70周年記念事業実行委員

【施設整備委員会】

榎本圭治(高2) 委員長 矢作興西(中1併) 副委員長 柳田敏雄(中12) 相談役 綾部義司(中9) 佐野元剛(中10) 久永弥三郎(中14) 加藤康造(中14) 高橋登(中19後) 高橋勝幸(中20) 桐山貞夫(中1併) 中村通雄(中1併) 松本正司(高4) 岸川正(高6) 永山孔昭(高6) 相原清(高7) 小野力(高8) 飯尾美甫(高8) 北村忠男(高9) 神保行廣(高11) 藤巻喜久枝(高12) 関野節郎(高17) 小泉晨(高18) 出嶋高昭(高19) 山本長愛(高20) 三嶽康雄(高26) 佐野均(高31) 小野智康(高38) 城所全(高21) 校内幹事 片岡世喜(高23) 校内幹事

【同窓会林友会】

久保守富男(高11) 委員長 原由夫(高4) 副委員長 羽籠光男(高16) 副委員長 伊藤昌治(中17) 相談役 小泉洋司(中10) 渡辺元彦(中11) 鷲尾隆(中13) 青島馨(中16) 谷富治夫(中16) 柳川寛治(中16) 水島敏夫(中18) 一箇真(中19前) 高橋誠一(中20) 宮永治年(中1併) 鈴木栄(高2) 青木繁美(高6) 半田忠龍(高8) 長谷川美夫(高9) 原正一(高11) 久保寺俊雄(高16) 新宮淳一(高22) 石田秀雄(高34) 小柳博之(高37) 大館裕章(高40) 武井達夫(高26)

【同窓会林友会】

加藤金次(中19前) 委員長 星野庄司(高6) 副委員長 半澤文子(高8) 副委員長 山川彰敏(中17) 相談役 相原伊三夫(中11) 金子尚(中12) 安島融(中14) 小泉功(中16) 多々谷隆(中17) 森茂(中1併) 加藤武雄(高3) 内藤久徳(高4) 井上朝紀(高9) 渡邊ゆき子(高14) 込山武(高15) 新倉啓(高16) 村上公和(高18) 飯田松男(高21) 栗坂原勝男(高28) 深谷和男(高32) 小清水哲郎(高39) 柳川一朗(高1) 武井達夫(高26) 校内幹事

【委員会】

関野勇(中9) 委員長 小林充(高5) 副委員長 内藤優(高6) 副委員長 榎本節子(高7) 副委員長 横山清太郎(中1併) 相談役 石井喜三郎(中5) 斎藤徳二(中11) 長谷川晴一(中13) 佐野長治(中14) 佐草政勝(中16) 大館誠至(中18) 森茂(中18) 高橋旭(高1) 和田大(高3) 内藤正徳(高6) 佐野秀哉(高9) 栢沼勇(高10) 岩田一(高18) 北村輝夫(高24) 稲毛義博(高27) 植田稷(高41) 平井隆行(高44) 古部三郎(高7) 校内幹事 田中洋(高11) 校内幹事

【資料収集委員会】

石塚秀雄(中10) 委員長 深田源次(中21) 副委員長 須山喜一(中7) 相談役 湯沢昇平(中3) 西野茂次(中5) 関野勝(中18) 坪井正(中19後) 二階堂博史(中20) 和田正毅(高3) 清田幸宏(高4) 吉川秀一(高5) 添田修平(高6) 高橋敏男(高8) 藤間大勝(高9) 伊奈美恵子(高12) 三川昭徳(高14) 竹久保忠幸(高17) 佐野友保(高18) 飯沼登(高25) 石井利幸(高45) 石井郷二(高7) 校内幹事 内藤篤史(高36) 校内幹事 小泉広澄(高17) 校内幹事

【会計委員会】

杉山健(中7) 委員長 青木利之(高4) 副委員長 関操(高4) 副委員長 金子尚(中12) 相談役 中村通雄(中1併) 能篠斐雄(中6) 原晟(中10) 柏木文夫(中12) 渋谷寧(中16) 大塚俊雄(中19前) 内藤美彦(高4) 賀川義光(高6) 大庭豊(高7) 草山弘道(高10) 北村紀男(高11) 山本尊史(高11) 相澤征吉(高12) 石原一雄(高12) 小林則之(高12) 梅沢昇(高13) 上野勝(高15) 関恒久(高19) 石川聡(高23) 校内幹事 重立正宏(高30) 校内幹事

【式典委員会】

浅田忠男(高6) 委員長 畑野公保(高7) 副委員長 梅原福司(中12) 相談役 喜多夫(高3) 相談役 三杉繁寿(中8) 相原豊友(中9) 矢島昭治(中17) 松永幸夫(中18) 山田重雄(中21) 原田正志(高2) 原邦夫(高5) 小川常子(高8) 安池功(高10) 相原省三(高11) 瓜本英雄(高13) 大沢秀男(高14) 大川要(高17) 鈴木子守氏(高18) 重田光男(高19) 高橋正則(高23) 石川千秋(高29) 阿部正次(高36) 佐藤寿也(高43) 須山喜一(中7) 中屋進一(高35) 静裕司(高19) 塚本誠(高23) 久保寺忠夫(高28) 校内幹事 高橋智之(高33) 校内幹事

【会計監査委員会】

高橋繁(中15) 委員長 小西登(中10) 副委員長 唐津祥也(中12) 副委員長 柳川一朗(高1) 相談役 白井武元(中7) 高橋徳治(中7) 廣澤富正(中9) 高橋和男(中18) 石井不二男(高3) 岩崎武(高6) 小清水子工子(高7) 横山清太郎(中1併) 小泉広澄(高17) 校内幹事

表紙スケッチ 「中庭の森」

横溝 英一

校舎の中庭は、植えられた樹が大きくなつて、ちよつとした森になつている。開校50周年の記念に、同窓会が寄付したものだぞうだ。校庭に森があるなんて、この時代に何とすばらしい事だと思ふ。「休息」の場として、かなり魅力を感じるのだが、若い世代の人達は、どうなんだろう。

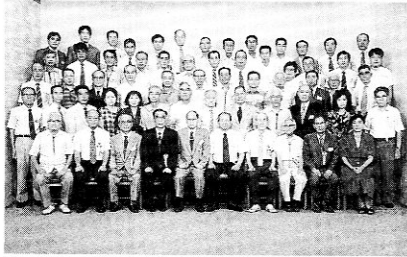
客員異動のお知らせ

本年三月三〇日を以て、本校の社会科教育と野球部を十二年間支えて来られた小見山孝先生が、足柄高校へと御栄転になりました。また五月三〇日には、長谷山達也先生も清川青少年の家へと御栄転の運びとなりました。お二人の今後ますますの御健勝と御活躍を心よりお祈り申し上げます。

平成六年度

同窓会総会報告

平成六年度同窓会総会は8月20日に平塚プレジールで開催された。事業報告、予算決算の審議、70周年記念事業中間報告等を滞りなく終了し、懇談会に入つた。今回はアトラクションとして、楽志亭学生(山口宣秀氏)の落語の出し物があり、和やかなうちに校歌斉唱、万歳三唱、そして70周年の成功を祈りつつ、再会を期しておひらきとなつた。(一)



物故者

慎んでお悔みを申し上げます。

客員

角田袈裟彦(教頭)(S54~S56)

会員

- 中5 足立 行雄
- 中7 中倉 義盛
- 中7 鳥越 卓三
- 中9 齊藤 伸一
- 中10 齊藤 兵治
- 中12 古宮 恭一
- 中14 奥住 寛
- 中15 関野 修司
- 中16 香川 英雄
- 中16 小泉 賢三
- 中18 石原 房満
- 中18 坂間 美次
- 中18 佐藤 武男
- 中18 細谷 広
- 中18 松本 一男
- 中18 水谷 昭三

中18 榎田 達儀

伴1 池田 税

高4 野上 輝雄

高4 高橋 武

高4 植木 万

高6 小泉 恒之

高7 相原 孝也

高7 小泉富士夫

高10 小泉 健彦

高13 小清水 勇

高17 大木 佳夫

高18 小宮 功久

高24 西田 勝美

高41 松島 一博

ご冥福をお祈り致します。

原稿をお寄せ下さい。

同例会・クラス会だより、近況報告など、原稿を(七〇〇字以内で)お寄せ下さい。

送付先〒257 秦野市下大槻一三

秦野高等学校内

同窓会会報委員会宛

編集後記

巡り合わせの不偶というか、編集委員が軒並み学級担任。目のまわる様な忙しさの中で「広陵」の編集に追われる事となりました。例年こんな感想しか書けない自分か情けない限りです。何卒おゆる下さい。(一)

〒257 秦野市下大槻一三番地

県立秦野高等学校内

秦野高校同窓会 会報委員会

電話 〇四六三 (一)一四二二〜三
振替口座 〇〇二〇一八一三六八九

発行責任者 小泉 功(中16回)

編集責任者 石井郷二(高7回)

武井達夫(高26回) 城所 全(高21回)